

なぜ子どもは
「少年ジャンプ」が好きなのか

馬居政幸 著

オピニオン叢書9

明治図書

オピニオン
叢書9

なぜ子どもは「少年ジャンプ」が好きなのか

馬居政幸 著

1
639



9784181639082



1923337011077

ISBN4-18-163908-8

C3337 ¥1107E

定価 本体 1107 円 + 税

Printed in Japan

はじめに

一九九一年一月五日、韓国、慶尚北道、金泉市。

私は家族とともに訪れたこの韓国地方都市の駅前にある小さな書店で、自分の疑う光景に出会った。書棚の一角に、日本で最も子どもたちに読まれている『ジャンプ』の人気マンガである「ドラゴンボール」の単行本が、日本の書店と同等に並んでいたからである。

なぜ、反日意識の厳しい韓国で、それもソウルならともかくこんな田舎の町的な書店にまで、禁止されているはずの日本のマンガが所狭しとハンダに訳さねんているのか。

非常に驚いて、思わずその中から一冊を手にとって内容を確かめようとした。こんな自分の耳を疑うことになった。

「これ悟空じゃない……悟空はこんな目してない……」

私の側にいた中学一年の長男の声であった。しかし、振り返って見たその顔は、
が見慣れた童顔ではなかった。

確かによく見ると、単行本の中のマンガの絵は日本の「ドラゴンボール」をその、
まコピーしたものだ、表紙の絵は韓国のマンガ家が描いたものであった。マンガに
者歴三十年以上、自他ともに許すマンガ通（マンガオタク？）と思っていた私のマ
ガ読解能力（リテラシー）を、わずか十二歳の長男がいつのまにか越えていたこと
気付かされた。

明らかに私とは異なる育ちの世界に長男はいた。

今、時代と社会が世界的変化の中にあることは誰しも認めることであろう。学
も例外ではない。「新しい学力観」のもとで一人ひとりの「子どものよさ」をいか
見いだし育むか。多くの心ある先生方は、新たな授業づくりのために悪戦苦闘の日
であろう。

なぜ、このような学力観や子ども観の変化を必要とするのか。現代の子どもたち
育つ世界に何が生じているのか。その答えを、国境と法を越えて異なる文化に育つ
どもたちのもとにひろがり、何よりも私を越えて育つ長男の姿を気付かせてく
『少年ジャンプ』の世界を読み解くことから考えてみたい。これが本書の主題で
もし、変化する時代と社会の中に育つ子どもをどのようにみつめていけばよいの
と悩んでいる方は、是非、次の頁を開いていただきたい。どうして自分の授業にエ
もがのってこないのか、と不満を抱いている方にも、多くのヒントを用意したつ
である。

子どもの「よさ」を見いだすまなざしを豊かにするためには、まず、子どもが自
進んで選び取った世界に謙虚に学ぶこと。これが非才を省みず『少年ジャンプ』に
んだ私の思いである。

目次

はじめに

一 少年ジャンプ六百万部への道……………七

- 1 十万五千部から四百万部へ、そして六百万部へ……………七
- 2 無視されるメディア……………一〇
- 3 少年たちの好きな言葉からの出発……………一四
- 4 子どもの『手塚マンガ』から大学生の『劇画』へ……………一七

二 六百万部への戦略……………四四

- 5 何からの解放か……………二四
- 6 団塊ジュニアの成長とともに……………三四

- 1 読者の評価が全て……………四四
- 2 編集者と作家の二人三脚……………四七
- 3 基本コンセプトの維持……………五一
- 4 不易と流行……………五四

三 六百万部ジャンプの世界と子どもの変化……………五八

- 1 涙と本気の世界……………五八
- 2 編集者と作家は教師に……………六三

3	学校の「教育力の拡大」の果てに	六七
4	団塊ジュニアへの重圧	七〇
5	少年ジャンプが担う世界は	七五
四 もう一つの教科書の世界		
1	シティーハンター……牙羽獠の恋愛講座	八〇
2	マンガが支える現実とは	八九
3	ジャンプ的世界の共有	九三
4	シミュレーションとマンガリテラシー	九七
5	悟飯とダイの自立への旅	一〇四
終章 世界の子どもたちのもとに		
		一一二

あとがき

一 少年ジャンプ六百万部への道

1 十万五千部から四百万部へ、そして六百万部へ

「少年たちの解放区を」

これは昭和六〇年『現代詩手帳』十月号に掲載された、当時の少年ジャンプ編集である西村繁男氏のエッセイの標題である。(このエッセイは『マンガ批評体系 3巻』竹内オサム・村上知彦編、平凡社、に再録されている)

エッセイの副題は「四百万部『少年ジャンプ』の夢」